

徳之島教会通信 第57号 合併号 喜界教会通信 第17号

つらなり

Home Sweet Home ~ただいま~



日本基督教団徳之島教会：
〒891-7101
大島郡徳之島町亀津 973-1
TEL 0997-82-0290

日本基督教団喜界教会：
〒891-6202
大島郡喜界町湾 154
TEL 0997-65-1096



「眠りこけても

だいじょうぶ」

森 言一郎
もり げんいちろう

土曜の夜になつても説教の準備どころじゃない。そういう巡り合わせの日があります。そんな時になぜか手元に届くのが、『つらなり』（徳之島教会通信）、『Home Sweet Home』（喜界教会通信）、『結び』（奄美大島宣教自立協議会通信）なのです。献金者リストをぼんやり眺めているだけでも、じんわり元気が出てきて、説教が出来そうな気分に変わる、不思議な力のある通信。旧知だけど、ベタベタとお付き合いしたことはない編集者の青山実さんや本多香織さんに、「今度もよかった。ありがとう」と電話してしまふ。

最近では、使徒言行録20章7節以下の、パウロの説教を聴いていた若者が深く眠り込んだ末に3階から落ちてしまい「死んでいる」と一度は伝えられた箇所からの説教準備の土曜日がそうでした。

パウロはエルサレムへの支援金を各地の教会からかき集めて届ける必要がありました。献金



のメドも立ち、港町トリアスで翌朝の船出を待つのです。パウロの話は「夜中まで」「長々と」続き、そのさなかにエウティコは転落します。

「騒ぐな。まだ生きている」とパウロは叫びます。そして、その後は、エウティコの命にかかわるような転落事故など、まるで無かったかのように、「また上に行つて、パンを裂いて食べ、夜明けまで長い間話し続けてから出発した」というのです。この場面、パウロが眠くなるような説教をしていたのだろう、と決めつけていましたが、その日、青山さんに電話した頃から見えて来たことがあった。

パウロが夜明け前まで語り続けたのは、一方的で難解な説教などではなく、むしろ、彼自身の失敗や不安が率直に語られるような話を切っ掛けに、一同、

大いに盛り上がったのではない。皆も喜んで聴き、パウロも調子上がる。気が付けば夜は明け、船出も近い時間になっていた。エウティコのように、日中の仕事で疲れ果てて眠りこける者が一人くらい居ることは、むしろ真実味があります。パウロも誰かの証しを聞きながら、「そうか。それなら、エルサレムで恐ろしい目にあつても、まだ頑張れるかも」と思っていたのではないか。

パウロにはいつしか多くの仲間たちが与えられていました。手と手が繋がっている姿を思います。

何百キ、何千キと離れた所に立っている仲間たちと共に生きている。見えないからこそ確かに存在する「つらなり」は、福音に生きる者たちが戻って来る「Home」を生み出します。そして、主イエスの時にも、パウロの時代にもあり、今もあつて、これからもきつと力ある「結い」を紡ぎ続ける。わたしたちはその輪に、少しばかりの努力を重ねながら、身を置き続けたい。

（旭東教会・十文字平和教会 牧師）